



2022年10月14日

各位

会社名 株式会社コパ・コーポレーション
代表者名 代表取締役社長 吉村 泰助
(コード番号:7689 東証グロース)
問合せ先 取締役経営企画室長 松田 三幸
(TEL:03-5724-4302)

2023年2月期第2四半期累計期間業績予想と実績値の差異及び
通期業績予想の修正に関するお知らせ

2022年4月14日に公表いたしました2023年2月期第2四半期累計期間(2022年3月1日～2022年8月31日)の業績予想と本日公表の実績値に差異が生じたので、下記の通りお知らせいたします。また、最近の業績の動向を踏まえ、2023年2月期通期(2022年3月1日～2023年2月28日)における当社の業績予想を、下記の通り修正することといたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 予想と実績の差異及び業績予想の修正

(1) 2023年2月期第2四半期累計期間業績予想と実績値との差異(2022年3月1日～2022年8月31日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A)	1,888	84	84	54	18円25銭
今回実績(B)	1,581	26	26	13	4円43銭
増減額(B-A)	△307	△58	△57	△40	—
増減率(%)	△16.3	△69.4	△68.7	△75.7	—
(ご参考)前期第2 四半期実績(2022年 2月期第2四半期)	2,469	201	200	130	44円06銭

(注) 当社は、2021年6月25日開催の定時株主総会において「定款一部変更の件」が承認され、決算期を3月31日から2月末日に変更いたしました。従いまして、決算期変更の経過期間となる2022年2月期第2四半期累計期間は、2021年4月1日から2021年9月30日までの6か月決算となっております。

(2) 2023年2月期通期業績予想数値の修正(2022年3月1日~2023年2月28日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	3,511	100	99	63	21円46銭
今回修正予想(B)	3,100	12	12	8	2円80銭
増減額(B-A)	△411	△87	△86	△55	—
増減率(%)	△11.7	△87.1	△86.9	△87.0	—
(ご参考)前期実績 (2022年2月期)	3,865	135	133	89	30円33銭

(注) 当社は、2021年6月25日開催の定時株主総会において「定款一部変更の件」が承認され、決算期を3月31日から2月末日に変更いたしました。従いまして、決算期変更の経過期間となる2022年2月期は、2021年4月1日から2022年2月28日までの11か月決算となっております。

2. 差異及び修正の理由

(1) 第2四半期累計期間の業績予想と実績値の差異

2022年4月14日に公表しました2023年2月期の業績予想におきましては、新型コロナウイルスの感染拡大の影響が続くことにより短期的な消費の回復は見込めないことを想定しておりました。当第2四半期累計期間は、前述の理由だけでなく、ウクライナ情勢による世界経済への影響、主に原油高・原材料の高騰や円安により、輸入商品の企画・開発が想定よりも進まなかったことから、メディアで取り上げられる商品数が減少し、シャワー効果が薄まったことによる影響のため、売上が伸び悩み、当初の予想を下回ることとなりました。

利益面につきましては、売上高の減少に伴い変動費も減少したことから、販売費及び一般管理費の総額は前期から減少いたしました。売上高及び売上総利益が減少したことにより、営業利益、経常利益、及び四半期純利益は当初の予想を下回ることとなりました。

詳細につきましては、本日(2022年10月14日)公表いたしました「2023年2月期第2四半期決算短信」をご参照ください。

(2) 通期の業績予想の修正

通期の業績予想につきましては、上期までの実績を反映したうえで、前述のとおりウクライナ情勢による世界経済への影響(原油高・原材料の高騰や円安など)など懸念事項があるものの、その状況下で、下期は新商品の発売が期待できることや新型コロナウイルスの感染者減少により実演販売の機会が次第に増加することを予測し、これらの足元の状況や最新の情報に基づき予想の見直しを行った結果、上記の通り修正いたします。

(注) 本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は、経済状況の変化、市場環境の変化及び他社との競合等の様々な要因によって異なる場合があります。

以上